

学生さんの活動をいっぱい聞く機会があり、とても面白かったです。私たちが彼らから刺激をもらえるように、私たちも彼らに刺激を与えられる存在でありたいものです。

高梨直紘（東京大学）／平松正顕（国立天文台チリ観測所）

さる11月25日、西荻地域区民センター（東京都杉並区）にて行われた日本天文教育普及研究会の関東支部研究会に参加してきました。今回の研究会のテーマは、ずばり「学生でもできる、学生だからできる」。最近の天文教育普及界限はご多分に漏れず高齢化（そして少子化）が進んでおり、もっと積極的に若者を取り込むべきという考えもあって企画されたもの。まあ、大人の思惑はともかく、元学生だった者としても興味深いテーマだったので、最近の学生さんたちの活動に触れられる貴重な機会ということで覗きに行ってきました。

この日の学生さんによる発表は、全部で9件。多くは大学生による発表でしたが、中には高校生による発表もあり、会場は初々しい緊張感に包まれていました。そして、結論から言えば、最近の学生さんは実にすごかったです。いや、本当に。個々の活動の内容はもちろんですが、

その背景にあって活動を支える思想、そして組織の作り方やその運営方法など実務的な部分まで含めて、とてもしっかりしていました。さらには、それを聴衆に伝えるプレゼンテーションスキルもそれぞれに個性があって素晴らしく、私はなんだか遠い世界に迷い込んでしまったような気がしてしまいました。自分の学生時分って、こうじゃなかったよなあ…。

YouTuberとしての活動や、全国規模で展開する緩いネットワーク作りなどの活動は、“学生でもできる”などではなく、むしろ“学生でないといけない”発想や技術、ネットワークを活かしたもので、基礎的なリテラシーが足りない大人は学ぶことだらけです。振り返ってみれば、私たちだって昔は自由な発想で、周りにおもねることなく当時の最新の技術を使い、自分が本当に面白いと思っていることを追究していたはず。今だってそのつもりですが、知らず知らずのうちに狭い



天プラの学生時代の産物たち。こういうの、大事ですよ…。

ところに小さくまとまってしまっていたのかもしれない。大人になるって、怖いな。

私たちが学生さんからいっぱい刺激をもらえるのと同じように、私たちも彼らに刺激を与える存在であり続けるにはどうしたら良いのか。学生さんが学生さんでないといけない活動を追究するのと同じように、私たちでないといけない活動のあり方を追究し続けることは、その答えのひとつでしょう。私たちの強みはなにか、その強みを活かした活動ができているか。常にその意識を忘れずに、2019年度も活動していきたいと思いました。負けないようにがんばるぞ。